



☆羅針盤 No.129

発行: サイクルズ株式会社
(旧名 東港金属グループ)
編集: 東港金属株式会社
東京都大田区京浜島2-14
電話 03-3790-1751
URL <https://www.tokometal.co.jp/>
(見学受付)
電話03-3790-1751 又は 各営業担当

*12月も後がありません。年初には、新元号(令和)最初のお正月という事で、いろいろな抱負を胸に皆が歩き出していた翌2月に、横浜港に豪華客船ダイヤモンドプリンス号が帰港したところから、新型コロナウイルスが日本の土を踏んだようです。乗客、乗員3,711人のうち、下船後に発症した人は除き、合計712人の患者が確認され、日本中にCOVID-19パニックが広がりました。予期せぬ災禍の中で、国中が見事に団結し何とか落ち着いているように思えた感染の波を雪や寒さが又連れ戻したようです。北海道を皮切りに日本国中に第三波が来ている様子。またまた自粛生活、不要不急の外出は控えてとの呼びかけが始まっていますが、以前のような緊張感が街中に伝わってきません。国も経済優先にシフトしなければならない状況と捉えるようです。一縷の光明は、米国、英国で12月中旬からコロナワクチン接種が始まるというニュースです。体力の限界を使命感でカバーしている医療従事者のためにも、新年は皆の笑顔が見られる年になることを信じて、我慢の3週間を何とか乗り切らなければなりません。
*サイクルズグループは非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



☆羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの12月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 11月は指標になる東京製鉄宇都宮工場特級価格26,000円/トンでスタート。ベトナム向け輸出価格上昇により数か月ぶりに500円/トン上がり最終的には28,500円/トン。12月1日から29,000円/トン。12月に関しては国内相場に大きく影響を及ぼすベトナムの買い意欲が旺盛なことから、さらに上がると考えられます。
- 銅** → 考察) 11月はLME6,700ドル台/トン、国内銅建値750,000円/トンでスタート。約7年ぶりの高価格を付けるほどLME価格が上昇し、最終的にはLME7,650ドル台/トン、国内銅建値810,000円/トン。12月は新型コロナワクチンの開発により、景気回復の期待から、さらに上がると考えられます。
- アルミ** → 考察) 11月はLME1,840ドル台/トンスタートし2019年3月以来の高値になり、最終的には2,000ドル台/トンまで上昇しました。12月に関しては、工場発生が相変わらず少ないことから、さらに上がると考えられます。
- プラスチック (産業廃棄物)** → 考察) 産廃に関しては、新型コロナの影響により在宅が増えオフィスゴミが激減。また、オフィスの縮小が多くなり事務所移転業者はかなり忙しい。来年がピークになるでしょう。中間処理業者はどれも異物混入に悩まされています。業界全体で発火性がある廃棄物の受入は断固断る姿勢が必要です。どうしても検収の緩い会社に悪い荷物は集まります。

11月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	○
銅	×	プラスチック	-

☆羅針盤

「はんこ」の歴史

政府が「脱ハンコ」を加速させています。菅首相は規制改革推進会議で全省庁に対し「押印の原則廃止の方針を前提として近日中に全省庁で、すべての行政手続きの見直し方針をまとめてほしい」と指示をしております。既に福岡市では今年9月末に、国や県の法令で義務づけられた手続きを除き、住民らが市に提出する行政手続きの申請書の8割に当たる約3800種類の押印義務を廃止したとのことです。

行政手続きに限らず民間の契約書類の「脱ハンコ」の動きも加速しております。

さて、日本の文化ともいわれている「はんこ」ですが、その歴史は知ってのようで未知な部分も多くあり、今回は「はんこ」についてのトリビアです。

印の発祥は紀元前7000年以上前までさかのぼりメソポタミアで使用されたのが起源とされています。

また、「はんこ」の制度の始まりとしては中国ではなく西洋から伝わった制度で「旧約聖書」の中にも実印や認印の制度のくだりが40箇所程散見されます。

日本に伝わったのは今から約2300年前(中国の後漢時代)に現在の紙が発明され、書物への捺印の習慣があらわれ、日本に渡り現在に至ります。皆様にも馴染み深いところでは、後漢の光武帝時代に

倭奴国(日本)に送られた金印(漢倭奴国王)が有名です。しかし、「はんこ」の文化は、最初からひろまった訳ではなく、一部の人のみの文化であり、一般の人は「はんこ」を持つことさえ出来ませんでした。平安時代に入ると「手形印」として掌に朱肉を着け押し、その制度は江戸時代まで使用されました。

その後、平安時代後期となると、武将の願文・起請文や遺言状などに花押(書き判)が現れました。「押」という字には署名するという意味があり、つまりは「美しく署名したもの」という意味になります。

江戸時代には、花押のことを「判」といい私印が使われる様になってから区別する為に、花押のことを書き判、印章のことを印判という様になったという説が有力視されています。

古来より文章の内容を証明する手段は、自署と花押と印判がありますが、実際に作成する際は佐筆や書記に代筆させていましたが、偽筆の技術が発達するにつれ字を崩すようになり独特のサインとして花押が利用されるようになり、一国一城の武士階級に多く見られ、鎌倉～室町時代に隆盛期を迎えました。



徳川家康の花押



童謡『みかんの花咲く丘』の景色(3)

営業部 吉永 桂子

こんにちは 東京事務所の吉永です。羅針盤連載3回目は、幼少期の熱海での生活のうち、自然災害についての対応訓練をご紹介いたします。

私が熱海で暮らしていた時期は、東海地震や富士山噴火などの自然災害を予言する噂や出版物が多かったようで(ノストラダムスもその一つだったので)我が家でも特に大地震への備えは習慣になっていました。就寝時には各自翌日の着替え一式と避難リュックを枕元に置いて寝ます。また、いざという時の避難方法についても親と一緒に何度も練習をしていました。更に、学校での避難訓練も頻繁にありました。授業中に予告なしでの訓練が始まります。それを幾度となく繰り返してましたので、みんな避難手順は体が覚えこんでいきます。

当時は、子供心に明日にでも大地震や富士山噴火が起きるのではないかという不安からか、大地震が来る夢をよく見ていました。(子供の情操教育には悪影響がありそうですね。)ずいぶん大人になった今でも、地震は怖くてたまりません。

話は逸れますが、その後東京に転校してきて、東京の小学校の避難訓練を体験して驚いたことを覚えています。まず、これから避難訓練が始まることを先生が最初に予告してしまうこと。そして皆がまるで遊び時間のおしゃべりしながらのんびりと校庭へ移動するだけなのです。熱海での緊張感に包まれた避難訓練しか知らなかった私にとっては、本当に驚きでした。

ただ、いくら避難訓練を重ねても、地震は予期せぬタイミングで起こります。私達が暮らしていた間に一度だけ震度5の地震がありました。当時の震度は5までしかありませんでしたから、現在の基準でどの程度の揺れだったのかは比較できませんが、大きな揺れでした。ちょうど小学生の下校時刻でした。私の姉は一人で下校途中に揺れに遭い、道路わきのブロック塀のそばに隠れるようにしゃがみ込んだそうです。その時近くにいたおじさんが「何やってるんだ！こっちへ来い！」と手を引っ張ってくれ、ブロック塀がくずれる間一髪で助けていただいたと聞いています。

大人たちに助けられ、年長のお友達に教えられ、多くの危険から守ってもらっていました。幸い今日に至るまで静岡県では大きな震災は起きていませんが、静岡県民の地震への備えは素晴らしかったと思います。

地震だけでなく、多くの災害時に役立つのは、普段の訓練だと思います。体が覚えてくれますから、訓練は真剣に致しましょう。

今回は、海・川・台風など水の楽しさと危険についてお話したいと思います。今回も読んでいただきありがとうございます。

一般的に利用される様になったのは、明治6年10月1日で明治新政府が太政官布告を行なった際「本人が自書して実印を押すべし。自書の出来ない者は代筆させても良いが本人の実印を押すべし。」と定め、今日のように印章が市民権を得るようになりました。